

令和5年度 全国学力調査分析 小松川第二中学校〈国語〉

1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	全国平均 (%)	本校平均 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	92.5	91.1	89.3
	3二	漢字を書く(おし量って)	46.6	43.9	53.3
	言葉の特徴や使い方に関する事項		69.6	67.5	71.3
情報の扱い方に関する事項	1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	66	65.1	63.3
	3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	66.3	61.8	65.1
	情報の扱い方に関する事項		66.2	63.4	64.2
我が国の言語文化に関する事項	2四	自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	69.7	67.5	72.2
	4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	74.4	82.5	82.2
	4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)	75.1	74.1	72.8
	我が国の言語文化に関する事項		73.1	74.7	75.7
話すこと・聞くこと	1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	89.2	87.5	89.3
	1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	79.2	76.6	78.1
	1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	84.7	82.5	85.8
	話すこと・聞くこと		84.4	82.2	84.4
書くこと	3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	58.8	54.3	59.8
	3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	74.7	72.1	75.1
	書くこと		66.8	63.2	67.5
読むこと	2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	67.4	63	69.2
	2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	77.8	74.2	79.9
	2四	自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	69.7	67.5	72.2
	4三	現代語で書かれた「耳取物語」とかこのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	54.1	50	50.9
	読むこと		67.2	63.7	68.0

2. 結果に対する課題と改善策 (カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策)

○言葉の特徴や使い方に関する事項

「落胆する」の意味を選択する設問に関しては、都平均・全国平均を下回ってしまった。慣用表現や文法事項の習熟には新聞教材などを用いて力を入れているので、今後も一層の習熟を目指す。それ以外の漢字の書き取りや表現技法に関する設問には、いずれの平均をも上回る成果を残した。カテゴリーとしての平均も良好である。さらなる向上を目指す。

○情報の扱い方に関する事項

設問は2問だが、共に都・全国いずれの平均をも下回ってしまった。書かれた文言が含有している意味合いを読み取る力が不足していると考えられる。現在、新聞教材の積極的な活用を図っており、情報を正確に読み取る力を育て続けている。今後もこうした指導を積み上げていく。

○我が国の言語文化に関する事項

都平均・全国平均を下回った設問は、1年次・2年次に教科書でも学んだ既習事項である。こうした基本的な知識の定着に不安定さを認める。反復して、次の学習への基礎としての重要性を訴えていく。

○話すこと・聞くこと

1問だけ、全国平均は上回ったものの都平均を下回ってしまった。他のカテゴリーでの習熟よりも、指導に費やす時間が少なかった嫌いがある。授業の組み立てを意識的に改め、話し合いやそれに基づく発表の場を従前よりも増やしていく必要がある。

○書くこと

設問全てとカテゴリー全体で良好な正答率で、いずれも都平均・全国平均を上回った。

○読むこと

4問中1問だけ、全国平均を上回ったものの都平均を下回った。上記「情報の扱い方に関する事項」での分析同様、書かれた文言が含有する意味合いや表現上の価値を読み取るかに若干の弱さが見られる。学校全体で朝読書など、読書指導に力を入れてきており、文章を読むことそのものへの抵抗感がかなり低くなっていることは確かなので、今後は、さらに様々なジャンルの文章を意識して読むように指導をしていく。

【まとめ】

①既習事項定着のための工夫

文法事項や語彙力等、一度学習し獲得した能力の定着を図る。教科書のみならず、自作プリント、確認テスト等での演習を行う。また、その内容を定期テストにも出題することにより、復習する機会を与える。

②言語能力の復習、確認の徹底

国語力の基礎となる部分。既習の漢字であってもそれを使いこなせるまでには用例の反復練習が必要となる。定期的に問題演習を実施し、また、読書指導の中で語句の理解を深めさせ、言語能力の定着・向上を図る。

③個別指導の充実

書くことについての能力は、個人差が多いと感じられる。そこで論述・記述の構成を身に付けさせるためには、個々人が取り組んだものを使った添削指導が必要となる。生徒個人に合わせた具体的な個別指導をより充実させていくことで、話したり書いたりの際に効果的に伝える能力の向上を図る。